

教材文化資料館平成24年度後期展

「イングリッシュ！—明治からの英語教育—」

明治から昭和にかけての英語の教科書を中心に構成します。日本で英語教育が始まるきっかけとなったフェートン号事件の紹介に始まり、日本初の英和辞典「諺厄利亜語林大成」(復刻)や、近年では指導されなくなりつつある筆記体やローマ字の資料を展示。兵教大が取り組んでいる「小学校英語活動プログラム」についても紹介します。

戦後のラジオ英会話が聴けるリスニングコーナーや筆記体体験コーナーなども設け、子どもから大人まで楽しめます。

↓「Revised Jack and Betty 3rd step」昭和28(1953)年 開隆堂出版



開催期間 / 10月19日(金)～2月27日(木)

場所 / 教材文化資料館(附属図書館内)

平日8:30～22:00、土曜9:00～17:00、日曜・祝休日13:00～17:00

※開館時間の変更や臨時休館する場合があるので、教材文化資料館のホームページなどでご確認ください

☎兵庫教育大学教材文化資料館 ☎0795・44・2362

兵庫教育大学教職員表彰

4月、兵庫教育大学の発展に多大なる貢献をした者について新たな規程を設け、加治佐哲也学長から表彰を行いました。



↑被表彰者と加治佐学長ら役職員

◎被表彰者

- ▶東日本大震災の心のケア支援に係る臨床心理士グループ(富永良喜教授(代表)、市井雅哉教授、海野千畝子准教授)
- ▶庭瀬敬右教授(世界一硬いダイヤモンドを生成する新たな手法の発見)
- ▶前芝武史准教授(第43回日展第三科特選)

第32回大学院同窓会兵庫大会を開催

7月28日、29日、大学院同窓会兵庫大会が神戸市内で開催され、22都府県の大学院修了者・在学者176人と大学関係者など合わせて226人が参加した。今回は「学びへの原点回帰—兵庫教育大学大学院発我々の学びを全国に届けよう—」をテーマに、教育実践研究活動等表彰、実践研究誌「教育の先達」創刊号の披露、実践発表、田辺真人園田学園女子大学名誉教授による「平清盛と神戸」と題した記念講演などが行われた。懇親会では、井戸敏三兵庫県知事から修了者、卒業者が県内の教育現場で活躍していることに対する感謝とさらなる期待を込めたあいさつがあり、その後は同窓会員が旧交を温める姿があらこちらで見られた。



↑カメラに収まる修了生(10～33期)と加治佐学長、来賓

附属幼稚園 + 附属小学校

↓附属幼稚園の田んぼにもち米を育て、園のもちつき大会で使っている。左から徳丸さん、藤田さん、清水さん



心引かれて入会した人も多
いという。「入ってすぐのメ
ンバーも飲み会で一気に打
ち解けます」と徳丸さんは
顔をほころばせる。
また、メンバーの中には大
学院時代に修士論文でおや
じの会を取り上げ、現在は
附属幼稚園に勤務する清
水憲志さんもいる。「父親が
主体の活動は交流の輪が広
がりやすいのが特徴です。母
親中心のPTA活動に父
親が加わることは少ないで
すが、おやじの会の活動には
奥さんや子どもも付いてき

やすい。そこから年齢の異な
る子どもたちの交流や、家
族ぐるみの付き合いが育ま
れていきます」
太陽が高度を上げ、強烈
な日差しが肌を突き刺す。
屋根を半分張り替えたここ
ろで休憩。メンバーたちは差
し入れのアイスクャンディー
を頬張る。「この暑さはたま
らんなあ」と愚痴をこぼし
つつも、その表情はどこか楽
しげだ。子どもの笑顔のた
めに、おやじたちはその
存在意義を大いに発揮し続
ける。



↑5月には人気テレビ番組「逃走中」をまねたイベントを開催し、附属小学校の児童約200人が参加。メンバーがハンターになって子どもたちを追い掛けた

十 附属中学校

兵庫教育大学附属三校園おやじの会

うれしの
交差点

兵庫教育大学と地域の交流ページ

↓気温35度の炎天下。メンバーたちは汗を垂らしながら、トタン屋根を張り替えた

↓メンバーはそろいの黒のTシャツを着用。おやじの背中にはたくましい



父親たちの地域の居場所
イベントや力仕事で子どもをサポート

8

月最後の土曜日、
附属幼稚園・小学

校・中学校に通う子どももの父親たちで結成された「附属三校園おやじの会」のメンバーが附属幼稚園に集まった。この日の目的はウサギ小屋のトタン屋根の張り替え。学校の備品の修繕は同会の活動の柱の一つだ。

「屋根に上がるのは3、4人、あとの人はトタン板を持ち上げたりしてください」。代表の藤田和昌さんの大きな指示だけで、メンバーはそれぞれのポジションに就く。チームワークは抜群だ。

近年、全国的に増えている「おやじの会」とは、幼稚園児や小学生の父親が中心となりPTA活動やそれに準じる活動に取り組む組織で、兵教大附属三校園に発足したのは平成18(2006)年。附属幼稚園のPTA副会長をしていた藤田さんに、名須川知子園長(当時)が話を持ち掛けたのがきっかけだった。「常々、父親たちが参加しやすいPTA活動」

があればなあと思っていたので、二つ返事で引き受けました」

キャンプやスポーツ大会、親子で遊べるイベントの開催のほか、大学祭では模擬店を出している。現在のメンバーは41人。中には自分の子どもが卒園・卒業した後も活動を続ける「OB」もいる。

「附属にはいろんな所から子どもが集まってくるので、父親たちは居住地のコミュニティとのつながりが希薄になりがち。だから、メンバーにとっておやじの会が地域の居場所になっています」と藤田さん。

副代表の徳丸英寿さんは5年前に転勤で大分県から西脇市に移ってきた。「初めての土地で不安でしたが、おやじの会のみんなと親しくなれて、プライベートでも楽しく過ごしています」

同会では月1回、飲み会を開いてメンバー同士の親睦を深めている。募集チラシの「飲み会あり」の言葉に



↑毎年、大学祭では焼き鳥の模擬店を出している

↑園庭のビオトープに掛かる橋の塗装にいそむ別働隊も

↑メンバーたちは附属幼稚園に集まる前にPTA主催のクリーン活動に参加。附属幼稚園・小学校・中学校の草刈りに精を出した